

## 百戦百勝の法則 韓信の靈言 (2012年12月23日靈示) 担当:石田昭 2016年4月9日

- 1 総裁先生:当会には厳しい内容。韓信は「自分を使ってくれる人」を求め、忠義に篤かった。国王になっても、裏切らなかった。この本を学んで外の人が百戦百勝するかも。
- 2 現代の天下取りは「票の取り合い」。劉邦の勝利は信用、包容力、多様な人間を使った事。個人の才能よりも、肚があり、包容力のある人間が勝つ。最終的には「才能」を超えた「徳」。
- 3 当会は才能のある人がいるが、有機的な組み合わせによる仕事ができない。「器の大きさ」による人使いではなく、個人で優劣を競っているレベル。大きな仕事は不可。
- 4 選挙に勝てない理由:信者数が圧倒的なら宗教政党でも勝てるはず。そうでないなら、浮動票を取れる人、目玉政策、新奇な発明、などがないと浮動票は取れず、勝てない。
- 5 主なる敗因は「教えてやる」という(上から目線の)口調にある。総裁は教える立場にあり、実績を持っているが、弟子に実績はない。それなのに、同じ言い方をすれば弾いてしまう。「ご自由にどうぞ」「我々の声を聞いてくれる人を探す」となる。つまり、「あなた達はそんなに偉くない」と反発を受けている。今までと同じようなやり方では勝ち目はない。
- 6 「自分たちは偉いんだ」と納得させようとして、自己催眠・自己洗脳を掛けている状態。
- 7 民衆が「威張っているやつの首を切る」ことで「主権者の気分」を味わっているのが今の選挙。政治家を謙虚にするために選挙期間がある。わがままな国民が“王様”をクビにするために作った制度が民主主義の制度であるが、幸福実現党はそれを理解していない。
- 8 マスコミが報じるのは、「人気がない」、「候補者が偉くない」ということ。「宗教の壁」などは関係ない。歌手や俳優など、他の分野に出ても全部ダメです。どの世界でも一流になるまでには「仕込みの期間」「努力の期間」が要る。その苦しみを経験しないと、辿り着けない。高いスペックという観念がない?しかし「負け戦さ」を続けるのは張良的な戦略・方便かも?
- 9 人気を取るのに必要な事は?「人材です」「顔になっている人」のところです。マスコミは名伯樂の面があり、「人気が出るかどうか」がよく分かる。今の戦い方や戦力から見ると、勝てる見込みはほとんどない。マスコミは実現党に人気がないことをよく知っている。
- 10 別に「宗教の壁」があるわけではない。組織に来てもいい事がない、墓場行きになり、職業が終わりになるだけ。組織はまだ、自己実現・自己発揮をしているレベルの人が多い。
- 11 「人気が出るには?」、注目されないといけない。「世間の壁」があるように感じているが、それは違う。外のせいではない。精進不足のせい。候補者が大人になっていない。
- 12 宗教は上意下達型と言われるが、当会は違う。「鉄の組織」ではなく「自由放任系」。だから、個人の能力やキャラクターが大事になる。だけど、そちらのほうの才能がない。
- 13 当会は言論発信機関としては、影響力がある。マスコミでさえ影響を受け、国論も政治も変わってきてている。ただし、集票能力がない。「圧力団体、啓蒙団体」という程度。
- 14 連敗を伸ばし、有名に。今は雑兵集団。助っ人が来る可能性(和合僧助っ人の任)あり。
- 15 自分がそれだけの者になるには、それだけ下積みの部分を作らないと駄目ということ。
- 16 役職者が自己顕示によって、自分を売り出そうと行動するうちに下手をすると、宗教の方の人気が下がっていくことがある。役職に就けたのは「棚ぼた」であることを知って(謙虚)にならないと、逆に票は減っていく。2012年衆院選の失敗原因是「教壇の上からしゃべっていた」こと。京極純一靈言:党首や編集長が頑張るほど票が減っているのが現実ですよ。
- 17 成功するタイプの人は、何処で何をしても成功する。政治家の原点は「実るほど頭を垂れる稲穂かな」である。総裁と弟子は違う。人間(凡人?)が同じことをしたら反発される。